

福 祉 委 員

活動事例集



社会福祉法人 長浜市社会福祉協議会



この事例集は赤い羽根共同募金の配分金で作られています

福祉委員とは

福祉委員とは、身近な地域の様々な課題の解決に向けた取り組みや、地域の交流を深めることを目的として活動する「地域ボランティア」です。

自分の身近な地域の実情を把握し、自治会や民生委員等との協働により地域の困りごとの解決や、地域内のふれあい、支えあいの活動を推進します。

福祉委員活動とは

福祉委員の活動として、4つの活動例を紹介します。

①地域の福祉ニーズ（福祉課題）の把握

訪問活動や日常生活の中で、地域内の状況や福祉課題を把握する活動です。

例えば…

- ・話し相手がなく、引きこもりがちなひとり暮らし高齢者がいないか
- ・家族の介護に困っている人がいないか
- ・子育てで悩んでいる母親がいないか

など、自分の住む地域を見渡すことから福祉委員の活動が始まります。

②地域の見守り訪問活動

上記例などの支援を必要とする人が、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、日常的に見守り訪問活動を実践し、当該世帯の身近な相談者や地域とのつなぎ役を担います。

③地域福祉活動の実践と協力

日常的な見守り訪問活動に併せて、地域で実施されるふれあいサロンの運営や万が一の災害に備えた福祉マップ等の作成、地区社協（福祉の会）が実施する地域交流事業、研修会などへの参画・協力を行うことも大切な活動のひとつです。

④民生委員など福祉関係者への連絡と協働

把握した福祉課題については、民生委員児童委員などの福祉関係者と協議し、課題解決に向けた取り組みを進めることが大切です。特に複雑な福祉課題についてはひとりで抱え込まず、地域共通の課題として地域関係者が協働して解決していくことが必要です。また、福祉委員活動の中で知り得た情報は、本人の同意を得るなど十分配慮する必要があります。

暮らしの中の気になる数字

121,709
人

長浜市の総人口
(H27.3.1現在)

25.8%
(31,430人)

高齢化率と人口
(H27.3.1現在)

8.5%
(10,318人)

80歳以上の人口

「まだまだ元気だけれど、健康のことなど色々気になる年齢」として声の多かった年齢の割合

約7人に1人

65歳以上の
認知症の人の割合

「2025年には、約5人に1人とも言われています」

(厚生労働省認知症施策推進総合戦略資料より)

51.2%

近所づきあいに
積極的な割合

近所づきあいについてのアンケートで「何か困っているときに助け合える程度」「お互いに訪問し合う程度」と答えた人の割合

(長浜市地域福祉計画市民アンケートより)

68.5%

近所でできる事は
「安否確認」と答えた人の割合

他にも、「話し相手」と答えた人の割合も53.9%と半数を超えています

(長浜市地域福祉計画市民アンケートより)

今、 求められている 福祉委員活動

それらを解決していくためには、住民一人一人が近隣に目を向け、地域にある生活・福祉課題をみんなで考え、行動（解決）していく必要があります。

様々な要因により、地域のつながりが希薄化していると感じる人が多い現代。

自分たちが住む地域のことを知ることが難しい状況の中で、子どもから高齢者まで、生活の中から生まれてくる問題・課題も増えてきています。



10年後の 地域のために、 今から 始められることを

地域で暮らすみんなのために、そして将来的には自分のために、今から始められることを少しずつでも積み重ねていくことが必要になります。

(国立社会保障・人口問題研究所
日本の地域別将来推計人口 平成25年3月推計)

団塊の世代が後期高齢者（75歳以上）となるのは平成37年（2025年）と言われており、その頃の長浜市の高齢者人口は34,214人で高齢化率は29.3%（後期高齢者は20,246人17.3%）と予測されています。





速水自治会福祉委員会

福祉委員 × 民生委員 × 自治会 = 地域力

ひとりじゃない

みんなで考えること

みんなで活動すること

みんなで気にしあうこと

誰かを支えようとするとき

その大切さを感じています

自治会が大きいからこそ、そこにアンテナを張る人（福祉委員）も多い方が良い。

そして、それぞれが気づいたことをみんなのこととして考える機会がある。

福祉委員会議では、通学路のことやサロン活動など、子どものことから高齢者のことまで、幅広くなんでも話すことで、安心して暮らせるまちづくりに取り組まれています。

速水自治会

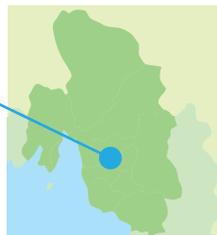
（湖北地区）

人口：1,578人

世帯数：474世帯

高齢化率：17.7%

（2015.3.1現在）



Action
活動

「気になるメモ」で小さな出来事も見逃さない

日々の暮らしの中で気づいたこと、気になったことをちょっとメモしておく。

そうすると、福祉委員会議の時などにとっても役に立ちます。



Action
活動

「福祉委員会議」で色々な情報を

2ヵ月ごとに開催している福祉委員会議では様々なことを話し合います。時には意見をまとめ自治会に報告をすることもあります。



曽根自治会福祉委員会

元気に 楽しく いつまでも曽根で暮らしたい

みんなが気楽に集まれる
 そんな場所が作りたい
 その場所をつながること
 その場所で元気になれること
 そして、いつまでも住み慣れた
 このまちで暮らしたい



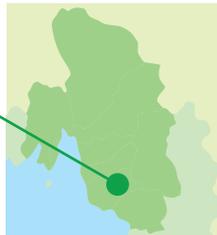
外に出て、みんなと出会うことで閉じこもり防止や生活のメリハリ、介護予防になるような活動を作りたい。

でも、なによりも大切にしたいことは「みんなが楽しいこと」。

曽根自治会の福祉委員会では、このような思いからサロン活動に取り組まれています。

曽根自治会 (びわ地区)

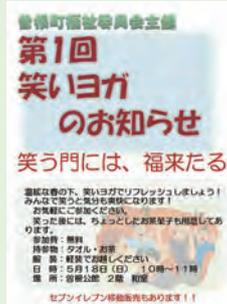
人口：775人
 世帯数：210世帯
 高齢化率：33.0%
 (2015.3.1現在)



Action 活動

お茶 + お菓子 + ちょこっとレク

気楽なおしゃべりと楽しい企画(レク)を併せることで、スタッフの手間(と経費をちょこっと)へらしつつ、参加者は楽しめる空間づくりに取り組んでいます。



Action 活動

チラシとクチコミで参加促進

活動の案内をチラシで全戸配布することや、参加者の「楽しかった」というクチコミで活動が広がっています。



宮司東自治会福祉委員活動

ふれあい 学びあい 笑いあい

この場所に集まることで
お互いにふれあいがある
お互いに学ぶことがある
お互いに笑いあえることがある
そんな
“心”のボディタッチが
できる場所でありたい

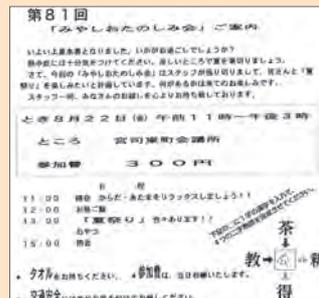
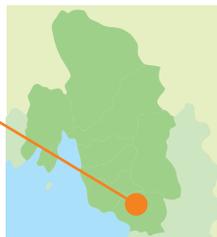


参加者の方に、昔のことも教えてもらえるし、道で会っても気楽にお話できる間柄になれたし、(参加者の)家族にも喜んでもらうことができ、いいことばかりです。

宮司自治会では、福祉委員さんと、民生委員さん、健康推進員さん方が「情報と活動の連携」を取りながらサロン活動に取り組まれています。

宮司自治会 (南郷里地区)

人口：1,069人
世帯数：300世帯
高齢化率：22.5%
(2015.3.1現在)



Action
活動

お誘い時からサロンは始まる

「次回は〇〇日ですよ」とお誘いの招待状を持って、声を掛けにご自宅に訪問ついでに、体調などの変化を気にすることで、見守りにもなっています。



Action
活動

「誰でも参加型」サロン

年に一回、参加対象年齢を無くし、「誰でも参加できるサロン」を開催することで、サロン活動の認知度アップをこれから目指しています。





祇園元自治会福祉委員会

毎日見守りは 小さな「変化」に気を配ること

なにかのついでにできる事
ひとりひとりが
それを積み重ねることで
自治会全体の
大きな安心と
なっています

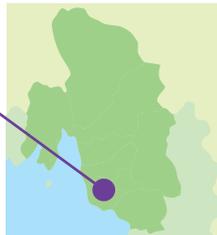


ひとり暮らし高齢者など、出来るだけ密に見守りを行いたい、でも、出来るだけお互いの負担は増やしたくない。

祇園元自治会の福祉委員さんを始めたとした見守り活動の協力者は、ウォーキングや買い物の途中、対象となる方の「暮らしの変化」に気を配り、元気に暮らしている“サイン”を確認することで「毎日見守り」を実施しています。

祇園元自治会 (神照地区)

人口：1,411人
世帯数：380世帯
高齢化率：11.5%
(2015.3.1現在)



Action 活動

窓の明かりや自転車の位置で暮らしの変化を見守り

本人に面と向かった見守りだけでなく、何かのついでに対象者の暮らしの変化を見守る。そうすることで、お互いに気を遣いすぎずに見守ることができます。



Action 活動

福祉委員と民生委員の連携

見守り活動やサロン活動など、企画から実施、そして振り返りまで、しっかりとした協力関係の中で行うことで、誰かに負担がかかりすぎることなく活動に取り組んでいます。



東物部自治会福祉推進委員会

防災力×福祉力＝日ごろから安心して暮らせるまち

いざという時を考えると
 気になるあの人が思い浮かぶ
 防災活動と福祉活動を
 あわせることで
 日ごろから安心して
 そして楽しく暮らせるまちにしたい



いざという時のたすけあいは、急にでき上がるものではありません。

防災訓練や、サロン活動などを続けることで、住民全体の意識が高まり、つながりあい
 が深まっています。

東物部自治会では、防災と福祉を一緒に考えることで、日ごろからのつながりを、いざという時に活かす活動に取り組まれています。

東物部自治会
 (高月地区)

人口：361人
 世帯数：95世帯
 高齢化率：31.7%
 (2015.3.1現在)



Action
 活動

マップ作りで「情報の見える化」

防災設備はもちろん、ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯がどこに住んでいるかなどの情報をマップ化することで、いざという時の安否確認などが誰にでも、すぐにわかるようにしています。



Action
 活動

顔をあわせるおつきあいを

サロン活動により、外出して人と会うこと、話すことで、気力の充実はもちろん、顔をあわせるおつきあいは、日ごろからの安否確認につながっています。

市内の福祉委員さんに聞きました

「アナタの活動の秘訣を教えてください」

「楽しく活動すること」

サロン活動や見守り活動などとおして、いろいろな人と出会うこと、つながることに、楽しみとやりがいを持って活動しています。まずは自分が楽しんで活動することが、長続きの秘訣です。



「連携を取り合うこと」

ひとりで抱え込むのではなく、自治会長さんや民生委員さんをはじめとする近隣の方の協力を得ること、また、いざという時などに「あの人に相談してみよう」と思える存在がいることや、様々な研修会に参加するなどして「どこに相談すればいいのかわからない」という不安を解消するようにしています。

地域に合った活動を

福祉委員の活動を考えるとき、新たな活動が必要になるわけではありません。自治会の人口、世帯数、面積、高齢化…市内426の自治会それぞれに、特徴や福祉的な課題、そしてこれまで培ってこられた活動やつながりがあります。活動に取り組もうとするとき、それぞれの自治会に合った方法で取り組みを始めることが、コツとも言えます。

すでにある活動を活かす

すでに自治会で取り組んでいる活動（運動会、年中行事、掃除人足、サロンなど）や活動している団体（自主防災組織、老人会、女性会など）との連携や機会の活用を考えてみましょう。

例

- 運動会の競技に、バケツリレーなどを取り入れ、楽しみながら防災意識を高める
- 自治会掃除時などに、必要な情報を交換する
- サロンで顔を合わせる見守り活動



「そっと見守り」のコツ

見守り活動を進める中で、相手によっては負担と感じ「大きなお世話」と思われる方もいらっしゃるかもしれません。

そんな場合には、「そっと見守る」という方法もあります。

「そっと見守り」の例

- ①郵便受けに配達物がたまっていないか、カーテンが開け閉めされているか、夜などは灯りがついているか、自転車やシルバーカーなどが動いている形跡があるか、など、暮らしの動きを見守る
- ②出会ったときの話の内容や顔色、体調などの変化に注意する



プライバシーと個人情報の違い

「個人情報」と「プライバシー」どちらもよく聞く言葉ですが、あまり区別することなく使われていることもあるのではないのでしょうか？

個人情報保護法とは

2005年に施行された法律で、正式には「個人情報保護に関する法律」と呼び、個人の氏名、生年月日、住所などの個人を特定する情報を守る法律です。

プライバシーとは

- ①私生活に関する情報（私事性）
 - ②まだ一般に知られていない情報（非向知性）
 - ③一般人なら公開してほしくないと思う情報
- の3つをさし、他人に知られたくないと個人が思っている、自らに関する情報のことを言います。また、いつ、どこで、誰と話したという個人の動向に関する情報なども含まれます。

それでは「個人情報」と「プライバシー」はどのように違うのでしょうか？違いを例えるならば、

『配達者が配達先を特定するために、個人を特定できる情報として、封筒の宛名「個人情報」が必要となり、送られてきた封筒を受け取った本人は、封筒の中身に記載されている内容は他人に知られたくない個人的な事柄なので、その内容は本人の「プライバシー」ということができる。』というような話もあります。

このような違いを踏まえたうえで、個人情報を大切に扱い、活動に取り組むことが大切です。





「福祉委員活動事例集」

社会福祉法人 長浜市社会福祉協議会

平成27年3月発行

お問合せ 地域福祉課 ☎0749-62-1804